

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		室内試験 (孔内水圧除外)	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)											
			花崗斑岩	灰褐色	Vg	IVg	Vg	γ			80.30~80.40m : 割れ目沿いに砂状化が進む。 80.30~80.35m : コアチューブ引上げ時に発生した角礫状コア。	0 50 100			0 10 20 30 40 50												
81		80.66~81.87m : 硬さ「D」中に硬さ「C」の径2~3cm岩片が断片的に分布。80°前後の高角度割れ目が多い。									8 10 100+ (100)																
82		81.17m : 55°割れ目に厚さ10~15mmで砂と褐色粘土混む。挟在物中と割れ目周辺に径0.5mm以下の微細な白雲母片。周辺は幅1cm程度緑色している。									5 10 100+ (100) CL'																
		81.82~81.87m : コアチューブ引上げ部で締った砂礫状呈する。 81.87~82.51m : 割れ目沿いに砂状化する部分も含まれる。10~30°と50~70°程度の割れ目がみられる。									6 10 100+ (100)																
			花崗斑岩	Vg	IVg	Vg	δ				82.51~82.62m : 0 風化で砂状化する。径0.5~1cmの花崗斑岩岩片が礫状に分布する。	0 50 100			0 10 20 30 40 50												
83		82.62~82.94m : CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2mm白色粘土混む。									6 10 100+ (100)																
		82.94~84.09m : CH ゆる割れ目や密着度の低い割れ目も多く含んでいる。割れ目の挟在物は少ない。30~50°と70~90°の割れ目が3~10cm間隔で分布する。									14 10 100+ (100) CH'																
		83.30~83.47m : 長石の一部が白濁化する。									14 20 100+ (100) CH'																
			花崗斑岩	Vg	IVg	Vg	γ	2			84.07~84.09m : 上端45°、下端65°割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。厚さ1~10mmで厚さ3mmレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン染染揮う。	0 50 100			0 10 20 30 40 50												
84		84.09~84.92m : CH 60~80°の高角度の「ゆる割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。 84.50m : 36°割れ目の一部に厚さ2~3mmのマンガンを伴う。 84.82~84.92m : コアチューブ引上げ時の機器により、割れ目交差部で一部片状コア。岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。 84.92~85.39m : CL 下位破砕部の直線的なせん断面と同方向の50~60°割れ目やゆる割れ目が多い。									16 10 100+ (100) CH'																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]			岩級区分	孔内水位 / 測定月日 (N) 値	(標準貫入) 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水深取巻)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コープチューン / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
												0	50	100			0	10	20	30	40												50
86				花崗斑岩	灰褐色	Cg	IVg	cg	δ	3	γ	85.01m: 幅1mm以下、2? 石英脈が50° 割れ目と斜交して連続。	0	50	100		0	10	20	30	40	50											
												●85.38~85.41m: 破碎部 85.38~85.41m: 粘土凝じり岩片状部 (H)																					
												85.38~85.41m: 上端45~50° で1箇所屈曲するが、これ以外ほぼ直線的に、下端47° で直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒と径3~5mm粘土化岩片と基質の砂状~粘土状部からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅20~25mm。上端の割れ目沿いにマンガン染染受け黒褐色化する。																					
87				花崗斑岩	灰褐色	Dg	IVg	cg	δ	3	γ	85.41m: 粘土状部 (Hc-1) 上端47°, 下端47° でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をこくわずが (5%以下) 含む。灰黄褐色を呈する。幅2mm。 85.41~85.92m: CL 上位の破碎部の直線的なせん断面と同方向の40~60° 割れ目主体、砂や粘土を挟む。所々、割れ目沿いに幅1~2cm程度緑色化を呈する。	0	50	100		0	10	20	30	40	50											
												85.92~86.43m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大。径10~30mm程の「C」岩片を多量に混えた砂礫状を呈する。																					
												86.43~86.86m: CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟入物はほとんど分布しない。 86.86~87.20m: CL 50~60° 割れ目沿いを主体に軟化が進む。断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。 87.20~87.51m: D 風化で締った塊状砂状を呈する。幅1~3mmの橙色粘土も脈状に分布する。																					
88				花崗斑岩	明黄褐色	Bg	IVg	bg	γ	2	δ	87.51~87.90m: CL 割れ目沿いに風化が進んでいる。全体に硬さ「C」の岩片が主体である。割れ目には風化結核の締った砂、粘土脈、マンガンを挟むことが多い。	0	50	100		0	10	20	30	40	50											
												87.91~87.90m: 傾斜60° 程度で細片化著しい。マンガンを挟む。																					
												87.90~88.51m: 硬さC主体。傾斜20° と50° の割れ目が交差し細片化している。 88.06m: 傾斜52° で幅2mmの赤褐色粘土を挟む。周辺は幅5mm程度で緑色化している。																					
89				花崗斑岩	灰褐色	Bg	IVg	cg	δ	3	γ	88.51~89.10m: 40~50° の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土挟む。それと60° 斜交~直交する割れ目や幅1mm石英脈も分布。	0	50	100		0	10	20	30	40	50											
												89.25~89.56m: 上下に比べやや割れ目が少なくなる。																					
												89.56~89.86m: 割れ目沿いに風化が進み全体濃くなる(硬さD)。																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コパチュール/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)														
				灰褐		Bg Ng	γ 2																							
						Cg Vg	δ 3																							
						Bg Ng	γ 2																							
91				花崗斑岩		Cg Vg	δ 3				90.70~91.00m: 傾斜80°の割れ目が発達する。																			
						Bg Ng	γ 2				91.16~91.25m: 低角度割れ目と高角度割れ目が交差し、径10mm前後の細岩片状に砕けている。下端にマンガン鉱染伴う。																			
				明褐色		Cg Vg	δ 3				92.32m: 53°割れ目沿いに径0.5mm前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。周辺は幅3mmで緑化する。																			
92						Bg Ng	γ 2				92.60~94.07m: 傾斜30~90°の割れ目にマンガンを挟むことが多い。																			
						Cg Vg	δ 3																							
93						Ex Wg dg					93.53~93.61m: 0割れ目沿いに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。																			
						Dg	δ 3																							
94	46.30	94.07		アブライト		Cg	cg				94.00~95.85m: CL 94.07~94.88m: 上下端65°で貫入するアブライト。上下端とも割れ目化し、磁鉄や変質粘土は伴わない。貫入面(65°)に60°斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の根粒(65~80°)をもつ。直上の花崗斑岩と直下のアブライトに磁鉄や変質は与えていない。																			
				暗緑灰		Cg	cg				94.88~97.00m: アブライト 94.88~95.67m: 傾斜30~60°の割れ目の一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水深取巻)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															N	値	0	10	20												30	40	50			
96			アブライト	アブライト	明褐色	Cg	Vg	δ	3		95.22~95.25m: 割れ目沿いに砂状化マンガン様う。95.30~95.45m: 緑色帯びる。	0	CL'																							
																																	8	(8)	10	(10)
97	48.37	97.00	花崗斑岩	アブライト	灰褐色	Bg	IVg	Y	2		95.85~96.58m: CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。傾斜10~20°とそれと直交する50°の割れ目がみられる。 96.00~96.10m: 割れ目沿いに幅1~2mm砂状化し、灰白色粘土脈も挟む。 96.58~97.11m: CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。 96.71~96.76m: 傾斜50°の割れ目が密集し、細片化する。コアは軟質である。 97.00~140.00m: 花崗斑岩全体に柱化し、組織が不明瞭になっている。所々、アブライトを挟む。	0	CL'																							
																																				8
98	48.77	97.57	花崗斑岩	アブライト	にみじくりに染み	Eg	Vg	ε	4		97.57~101.85m: アブライトを挟む。花崗斑岩との境界は上傾45°の割れ目、下傾90°で移している。 97.57~97.88m: O 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は細った土砂状。下層付近の97.85mに40°幅1~5mm赤褐色葉物脈が分布。全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きくうねった割れ目が密集する。 97.88~100.51m: CM 硬質で風化と変質も弱くなる。密着度が低い割れ目やゆる割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物ほとんど認められない。 97.88~101.00m: 割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	0	CL'																							
99			アブライト	アブライト	褐色	Bg	IVg	bg	Y	2	99.03m: 35°割れ目に微細な黄鉄鉱が晶出している。	0	CM'																							
																																12	(12)	12	(12)	12

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															N 値	深度															
				アフライト	褐灰	Bg	IVg	bg	γ		100.00~100.51m: ゆる割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。																				
		-51.34 101.20		アフライト		Cg	Vg	cg	δ		100.51~100.72m: CL 風化で一部割れ目沿いに砂状化し、幅5~10mmでマンガン鉱染も受ける。																				
		-51.62 101.60		花崗斑岩			IVg				100.72~102.35m: CM 割れ目には挟在物ほとんど認められない。一部で密着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全体に径2~3mの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。																				
		-51.80 101.85		アフライト							101.20~101.60m間: 斑晶がやや多く花崗斑岩となる。アフライトとの境界は漸移的である。																				
				アフライト							101.57~101.59mと102.00~102.05m間は割れ目沿いに片状~塊状に砕けているが、粘土や酸化部は分布しない。																				
				アフライト							101.61~101.72m: 傾斜70~80°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む。																				
				アフライト							102.05~102.35m: 高角度で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。																				
				アフライト							102.35~105.00m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目沿いに薄く砂状化した粘土脈やマンガンを挟むが全体では挟在物ほとんど含まない。径2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。																				
				アフライト							102.65m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈を伴う。																				
				アフライト							102.75m: 傾斜50°の割れ目に沿って白濁化している。																				
				アフライト							103.30m: 傾斜70~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。																				
				アフライト							103.52~103.54m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。																				
				アフライト							103.98m: 傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水深取巻)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															(N値~深度) 図	(N) 値																			
				花崗斑岩			IVg	cg			105.23~105.25m: 65° 割れ目は幅1~3mmの緑色粘土を挟む。磁石は伴わない。 105.72m: 傾斜60° で幅1mmの緑灰色粘土を挟む。																								
				花崗斑岩			Bg		γ 2		106.30~108.50m: 所々、長石の楕円石化が見られる。 106.33m: 60° 割れ目沿い幅5mmが細片化する。粘土は伴わない。																								
				灰褐色			IVg				107.40~107.83m: CM 107.52~107.55m: 各々40°, 53° 割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。																								
				アブライト			Og	Vg	cg	δ 3	107.83~108.24m: CL 風化で割れ目沿いに軟化が進む。 108.20m: 50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉄染を受ける。 108.24~109.99m: CM 硬質であるが、ゆる割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。割れ目には挟在物はほとんど分布しない。 108.64~108.76m: アブライト脈を挟む。上端・下端とも50° 程度で境界は明確で砂着している。																								
				花崗斑岩			Bg	IVg	bg	γ 2	109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長さ10~30mm主体の硬質岩片化している。 109.98~110.43m: CH ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	(標準貫入) 試験					室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
															(N値 ~ 深度) 図																						
				花崗斑岩			IIIg				110.43~112.04m: CM 空手で割れ目に採入物はほとんど分布しない。																										
		58.07	110.72	マンモナイト			Bg				110.72~111.54m: アブライト脈を挟む。上端15°で機械割れ、下端45°で滑面し、境界は明確で一部浮着している。																										
		58.65	111.54	花崗斑岩			IVg				111.13~111.37mは凝結石化で暗緑色を呈する。																										
				花崗斑岩			bg				111.37~111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるペグマタイト。両者の境界部はよく密着し、破砕や変質は伴わない。																										
				花崗斑岩			Gg				112.04~112.83m: CL 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体。割れ目交差部の一部では岩状化する。																										
				花崗斑岩			Vg				112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目沿いは風化で弱く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン染染を弱く受ける。割れ目の面沿いは弱く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。																										
				花崗斑岩			Dg				112.83~113.51m: CL 割れ目沿いに砂状化が進むことが多い。																										
				花崗斑岩			cg				113.03~113.31m: 消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。																										
				花崗斑岩			dg				113.10~113.30m: コアチューブ引上げ時に乱され、凝結コア化している。全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う。																										
				花崗斑岩			eg				●113.51~113.60m: 破砕部 113.51~113.56m: 粘土凝じり岩片状部 (H) 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。径5~10mm径さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化する。灰褐色を呈する。幅20~35mm。 113.56m: 粘土状部 (Hc-1) 上端66°、下端66°でいずれも小さく波打って連続。途中で幅1mmの粘土に分離する。数段で、径1mm石英粒わずかに含む。灰白色を呈する。幅1~2mm。 113.56~113.60m: 粘土凝じり岩片状部 (H) 上端66°で小さく波打ち、下端63°、幅1mm以下の径さV程度の直線的な軟弱粘土脈として連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。このうち、113.58~113.60mは硬質砂状を呈し、灰褐色を呈する。幅15~20mm。 113.60~113.70m: D 径2~20mmの形角率30%程度含む暗褐色砂状部。下端境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。 113.70~114.00m: 傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂礫状を呈する。 114.00~114.75m: CL 高角度80°と低角度20°の割れ目が交差し破砕30mm以下に岩片化。割れ目の一部は砂状化~マンガン染染を受ける。一部は掘削時に岩片化したものを含む。 114.75~115.52m: D 風化若しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。一部は掘削時に岩片化したものを含む。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					室内試験 (孔内水位)	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																						
																0	10	20	30	40										50																																																					
				花崗斑岩	明褐色	Eg	Vg	dg	e	3	115.28m以深では割れ目の一部が残留している。	0	50	D'		0	10	20	30	40	50																																																														
	116										Cg																			2	115.52~118.63m: CL 60~70°の高角度割れ目と30°前後の低角度割れ目が交差する。割れ目沿いの多くは砂状化する。一部は膨潤時に岩片化したものを含む。	3	50	D'																																																	
	117																														Vg																										cg	δ	116.87~117.00m: 径10mm前後の球状コア。これは掘削時に割れ目沿いの砂状部分が流失したためと推定される。	3	50	CL'																					
	117										117.00~118.26m: 割れ目沿いに砂状化が進んでいる。岩片は径10~30mm 硬さ「C」主体。割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部では径5mm前後に細片化するものもある。所々、幅1~3mmの灰白色粘土を挟む。																			3		50	D'																																																		
	118										117.25m, 117.82mなど、60~70°割れ目は40°割れ目を止めている部分がある。止めている割れ目に細粒部は伴わない。もしくは局所的にしか分布せず。割れ目周囲の原岩組織は明瞭に認められる。																																													3			50																								
	118										118.10~118.26m: 割れ目の一部は軽微なマンガン浸染を受ける。																			3	50	D'																																																			
	118										118.26~118.63m: 止色よりも更に割れ目沿いの砂状化が進んでいる。厚さ1~2mmの白色粘土系を細目状に挟む。																																															3		50	D'																						
	119										118.63~118.94m: D 砂状化が著しくなり、砕った砂状化を呈するものが主だが、硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留。																			3	50	D'																																																			
	119										●118.94~119.10m: 砂凝じり岩片状部 (Hj) 上端32°, 下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。 119.10~119.12m: 硬凝じり粘土状部 (Hc-2) 上端60°で直線的に、下端60°で波打って連続。軟弱で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を10~20%含む。粘土中には、表面がマンガン化した径1mmの石英粒が多い。浅黄色を呈する。幅12~15mm。 また、下端~上端へ斜交する幅2mmの軟質な黒色粘土系が分布する。																																														3		50																								
	119										119.12~119.30m: Cl 上端60°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが、挟み物はほとんど分布しない。一部は膨潤時に岩片化したものを含む。																			3	50	D'																																																			
	119		119.30~120.78m: Cm 一部で強着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分層・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	3	50	D'																																																																													
	119		119.30~120.00m間は傾斜30~60°程度の割れ目が1~5cm程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10~30°程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する。																											3	50	D'																																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原位貫試験 (孔内水深取巻)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															(N 値)	(N 値 ~ 深度) 図															
											120.78 ~ 122.00m : CH																				
121											121.08 ~ 121.16m : アブライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明瞭な境界をもち、面はゆるんでいる。																				
122					灰褐						122.00 ~ 125.06m : CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。すでに閉口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 122.36m : 傾斜52°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。																				
123				花崗斑岩							123.38m : 割れ目交差部で幅2~3mm細片状化するが、風化砂状部や粘土化部は挟まない。																				
124					褐灰						124.54m : 55° 割れ目面に厚さ0.5mm、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)													
				花崗斑岩	褐色	IVg	vg	β			125.06~125.20m: CL 砂着割れ目などから分層・細片化している。砂や粘土は挟まない。																		
											125.28~127.60m: CM 開口割れ目と平行方向の砂着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分層・細片化する。ごく一部 (下記127.16~127.25m間) でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、未風化。																		
											127.16~127.25m: 径10mm前後で角礫化している。下延の45°割れ目面には幅10mmが径2~5mmで細粒状化し、風化で淡褐色化する。																		
											127.68~128.00m: CL 厚さ5~10mm程度の片状コア主体で、挟在物は下部部の128.06~128.08mが径3~5mm硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土など挟まない。一部は掘削時に岩片化している。																		
											128.00~128.64m: CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。																		
											128.64~128.80m: CL 径10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目沿いに風化が進行していると推定される。																		
											128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の中角度割れ目の交差部では径10mm前後に片状~角礫状化するが、砂状部や粘土化部は挟まない。																		
											129.91~131.93m: CH 一部のコアには砂着割れ目や密着割れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分層・細片化しないものが多い。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← (m) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧 含む)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
														N 値	深度																	
										130.00~140.00m: ゆ着割れ目が約10mm間隔で分布。																						
131				花崗斑岩			III g			131.40~131.52m: 径20~30mmに角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。																						
132				褐灰			Bg	bg β 2		131.93~132.07m: CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部を挟むことがある。挟在物がない(b)割れ目が主体。 132.07~132.24m: 径10~20mm角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な真鍮箔も伴う。同区間は柱状である。 132.18~132.33m: アブライト脈を挟む。上端はコアチューブ引き上げ部で不明、下端は0°で明瞭な境界をもち、面はゆ着している。																						
133										133.20~133.25m: アブライト脈を挟む。上端、下端とも傾斜5°で明瞭な境界をもち、面はゆ着している。 133.40~134.00m: ゆ着した密着割れ目沿いに開口化し、径10mm前後に細かく砕けている。																						
134							IV g			133.82m: 60°割れ目沿い幅20mmが径3~5mmの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土は挟んでいない。 134.78m: 傾斜35°で幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。 134.87~134.91m: 傾斜56°, 幅25mmで緑色化している。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験 (N 値 ~ 深度) 図					室内試験	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)												
															N 値																								
136			花崗斑岩		褐灰						135.41m: 傾斜20°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。 135.45m附近: 傾斜55°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。		CM																										
137		135.80~136.00m: 砂着割れ目沿いに開口し、長さ10~30mm程度に細片化している。									137.00~138.07m: 砂着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。			138.07~138.44m: CM 密着度の低い選り割れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。長石の白濁化や割れ目状の物はほとんど認められない。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。	138.44~138.80m: CH 堅硬。塊状。砂着割れ目が多いが、密着度高くハンマー強打でも分離しない。	138.80~139.82m: CL 139.18m以深は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。全体に割れ目状の物はほとんど含まない。 139.93m: 60~70°厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着一部割れ目化して連続。 139.95~139.09m: 30~40°と70°割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は伴わない。 139.18m以深は上位より風化と変質が進む。 139.31m: 77°割れ目沿い厚さ2~3mmマンガン鉄染を受ける。																							
138																																							
139																																							
78.77140.00																																							

件名 : [REDACTED]

孔番 : H27-B-1

深度 0.00m ~ 18.00m

[REDACTED]



件名 : ██████████

孔番 : H27-B-1

深度 18.00m ~ 36.00m

██████████



件名 : ██████████

孔番 : H27-B-1

深度 36.00m ~ 54.00m



件名 : [REDACTED]

孔番 : H27-B-1

深度 54.00m ~ 72.00m

[REDACTED]

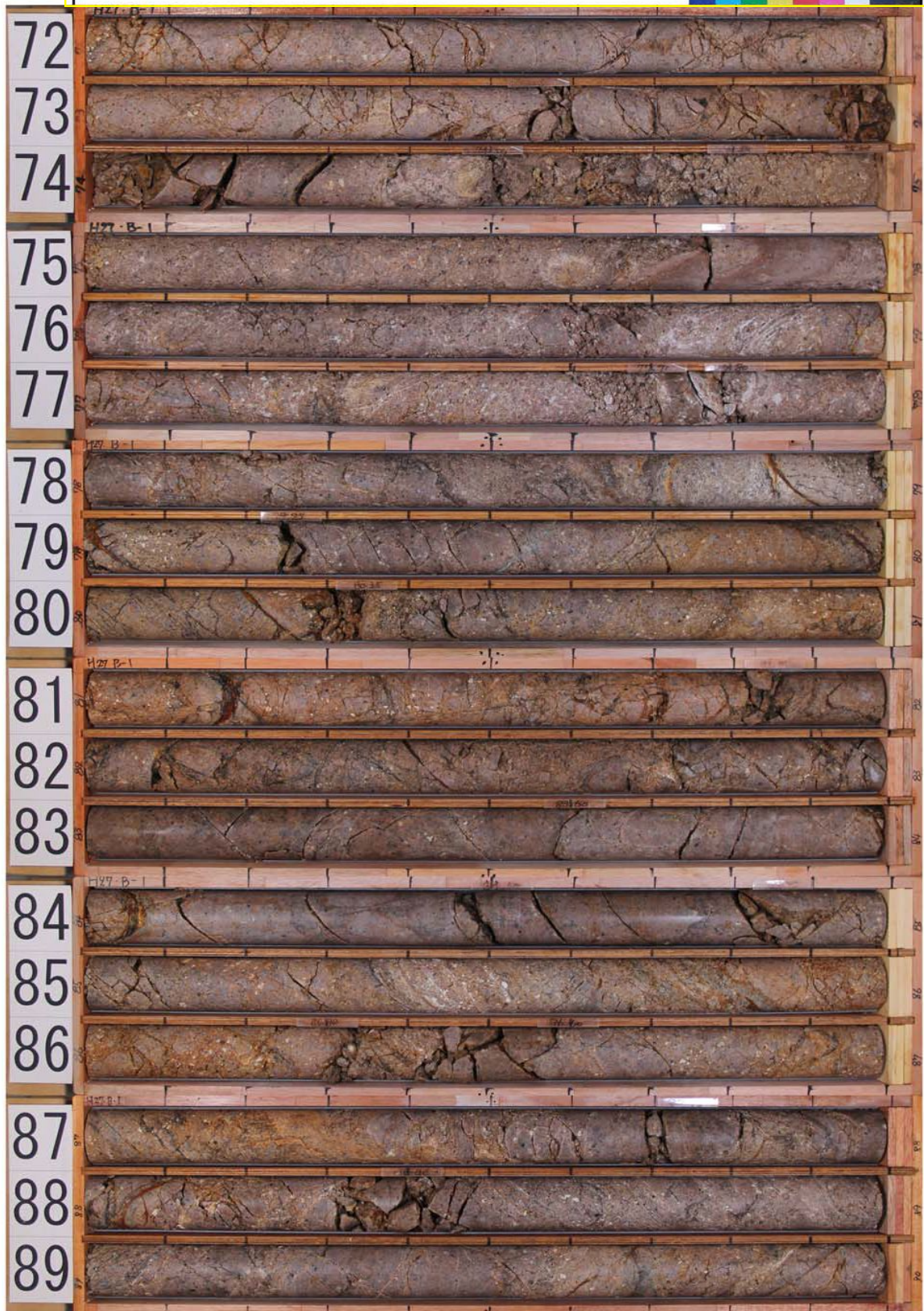


件名 : [REDACTED]

孔番 : H27-B-1

深度 72.00m ~ 90.00m

[REDACTED]



件名 : ██████████

孔番 : H27-B-1

深度 90.00m ~ 108.00m

██████████

